

教授

今村 浩司

■ 学歴

1. 九州大学 大学院 医学系学府 医療経営・管理学専攻 専門職学位課程 修了

■ 学位

1. 医療経営・管理学修士（専門職）
2. 修士（福祉社会）

■ 研究分野

1. メンタルヘルス（精神保健・こころの健康）領域におけるソーシャルワーク実践
2. 刑事司法領域におけるソーシャルワーク実践
3. 障害者・高齢者の地域移行支援・地域定着支援・地域包括支援

■ 研究キーワード

1. メンタルヘルスソーシャルワーク
2. 臨床実践・生活支援・地域支援
3. 更生保護・成年後見・触法障害者

■ 研究課題

1. メンタルヘルス領域における地域生活支援に関する研究
2. 精神障害者の成年後見に関する研究
3. 触法障害者・高齢者の地域定着に関する研究
4. 精神科病院からの長期入院者の退院支援・地域移行に関する研究
5. 諸外国におけるメンタルヘルスサポートシステムの歴史的変遷の研究

■ 担当授業科目

1. ソーシャルワークの基盤と専門職（福祉学科 1 年前期必修 2 単位）
2. ソーシャルワークの基盤と専門職（社会専門）（福祉学科 1 年後期必修 2 単位）
3. 福祉入門（福祉学科 1 年前期必修 2 単位）
4. 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ（福祉学科 3 年後期選択 2 単位）
5. 精神障害者地域生活支援論（福祉学科 4 年後期選択 2 単位）
6. ソーシャルワーク実習指導 A（精神）（福祉学科 3 年通年選択 2 単位）
7. ソーシャルワーク実習指導 B（精神）（福祉学科 4 年通年選択 2 単位）
8. ソーシャルワーク演習 A（精神）（福祉学科 2 年後期選択 1 単位）
9. ソーシャルワーク演習 C（精神）（福祉学科 4 年後期選択 1 単位）
10. ソーシャルワーク実習 A（精神）（福祉学科 3 年選択 4 単位）
11. ソーシャルワーク実習 B（精神）（福祉学科 4 年選択 4 単位）

12. ボランティア概論（保健福祉学部 of 看護学科・福祉学科・栄養学科 1 年前期選択 1 単位）
13. ボランティア概論（人文学部の英語学科・観光文化学科 1 年前期選択 1 単位）
14. 専門研究Ⅰ（福祉学科 3 年通年必修 2 単位）
15. 専門研究Ⅱ（福祉学科 4 年通年必修 2 単位）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【ソーシャルワークの基盤と専門職】および【ソーシャルワークの基盤と専門職（社会専門）】 福祉学科 1 年で開講される、相談援助実践に不可欠な社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の基盤的要素と、その実施者の専門職であるソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の現状や課題の理解を深める、本学科における最も重要な講義科目の一つである。新カリ移行で、通年講義から半期ごとでの単元が変わった。毎時間最初に導入材料として現代社会の状況をマスメディア等の資料を使用して状況を把握させ、特段専門職としての視点の形成に努めた。よりリアリティに学ぶために、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ、高等学校の福祉科教諭やスクールソーシャルワーカーの現任者をゲスト講師に招聘し講義を展開した。また、リアクションペーパーの機能を使用して理解度を確認するとともに、予習、復習にかけた時間、利用した教材等々も記載させ、学んだことと感想の他に、本日の学生自己への点数も記載させ、次回の講義につなげるように工夫した。後期は、本講義において重要語句であるキーワードを設定し、毎時間の最初に確認テストを実施し、理解を深めた。
2.	授業科目名【福祉入門】 対人サービスを行う福祉専門職（ソーシャルワーカー）養成のために、福祉学科 4 名の教員で、現実的な福祉実践臨床現場における活動などを、それぞれの設定したテーマに沿って、臨場感溢れリアリティな内容の授業を提供し、①障害福祉、②司法福祉、③低所得者福祉、④子ども家庭福祉、⑤災害福祉を担当した。福祉専門職が実践にてどのような活動を展開しているのかを伝え、そのために必要なコミュニケーション、自己表現、チームワーク等の技能の習得の必要性を理解することを中心に展開させた。リアクションペーパーの機能を利用して、次の担当の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
3.	授業科目名【現代の精神保健の課題と支援Ⅱ】 精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な必修科目であり、また教職課程においても必修の科目である。可能な限り臨床的な状況にし、国家試験をも意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士を受験しない受講生や教職以外の受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神保健学全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、理解の促進に努力した。毎時間リアクションペーパーの機能を使用して、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
4.	授業科目名【精神障害者地域生活支援論】 精神障害者の地域生活の現状と課題について、具体的実践事例を交えながら解説した。4 年後期に開講することから、精神保健福祉全般に対しての総まとめ的講義内容となるよう、これまでに学習して理解をしてきたことの整理整頓を促すために、振り返りを中心として理解を深めた。毎時間リアク

	ションペーパーの機能を使用して、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
5.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導A】 精神保健福祉士レーン担当の2人の教員合同で行うもので、事前にそれぞれの役割の分担を行って実習に対しての理解を深めさせた。特に実習前及び実習後それぞれに学生の疑問に感じていることを整理させ、そのことについて調査をして学習できるよう工夫した。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。
6.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導B】 上記同様2人の教員合同で行い、実習Iを踏まえた上で、更なるステップアップを目指していけるよう疑問点の整理や到達目標の具体的な設定などの詳細な指導を行って理解を深めさせた。より実践的な理解が深まるように、受講生全員で理解を深める努力をした。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。
7.	授業科目名【ソーシャルワーク演習A】 メンタルヘルスの専門家である、精神保健福祉士としての導入の演習としての位置づけであり、まずは精神障害者とのかかわりの重要性を中心に理解を深めた。精神障害者のイメージやその家族の思い、地域社会での状況、精神科病院での場面設定等々を行い、グループ化して具体性を持って検討を深めた。また、グループ別に北九州市内の精神保健福祉に関する社会資源マップ作成を行い、実践に生かせる知識を深めた。次年度への、より専門的知識と実践での実習に対してのイメージも膨らませるよう心掛けた。
8.	授業科目名【ソーシャルワーク演習C】 メンタルヘルスの専門家である、精神保健福祉士として現場実践を行う時に、必要と思われる技術の習得を中心に行った。特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて開設を行い、理解を深めさせた。さらには、学生に役割を持たせてロールプレイを行い、それぞれの観点からの体験させる講義の展開に努力した。また、4年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。
9.	授業科目名【ボランティア概論】 人間総合科学の中の、地域創生分野の講義であり、ボランティアや地域貢献活動の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアや地域貢献活動に参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的とした。社会の中で実際にボランティアや地域貢献活動を実践している5名の方をゲストスピーカー（外部講師）として招聘し、さまざまな角度からのリアリティにあふれる具体的な講義を展開し、その現状と魅力が伝わるよう心掛けた。
10.	授業科目名【専門研究I】 3年のゼミ生に対して、精神保健福祉士・社会福祉士として現場実践力の重要性を考えて、できる限りの現場中心の話題提供を行った。それに対して感じた点や疑問点を言語化や文章化し、理解を深めさせた。よりリアリティを高めるため、精神科病院や福祉施設等の見学を行って、具体的現実感を習得させることに努力した。また、精神保健福祉士、社会福祉士の具体的イメージを抱かせるため

	に、専門職団体が開催する研修会等々の案内を常に行い参加を促進した。さらには、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験との関連性を、常に意識付けるように指導した。
11.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 4年のゼミ生に対して専門研究Ⅰを踏まえた上で、具体的に実践的な精神保健福祉士・社会福祉士としてのイメージを持たせるように指導を行った。また、学生それぞれに「卒業研究（ゼミ論）」のテーマを与え、学術的実践的アドバイスをを行い、総まとめができるように指導を行い、研究成果を報告集としてまとめた。また、社会福祉士、精神保健福祉士ダブル合格と、医療や福祉の業界への就職という2つの目標を定めて活動をした。結果、ゼミ生全員の就職が内定し、社会福祉士と精神保健福祉士にダブル合格を含め、多数輩出することができた。今年度も、ゼミ生のダブル合格者多数の結果であったので、次年度に向けても同様に取り組みたい。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1994年～現在	日本精神保健福祉士協会（精神保健福祉士学会）	理事（2001年4月～2020年3月）
2	1996年～現在	日本社会福祉士会（社会福祉士学会）	代議員（2010年6月～2012年6月）
3	1996年～現在	日本社会福祉学会	代議員（2013年～現在）
4	2006年～現在	日本病院・地域精神医学会	
5	2008年～現在	日本精神障害リハビリテーション学会	
6	2012年～現在	日本精神保健福祉学会	
7	2012年～現在	九州精神神経学会	
8	2013年～現在	日本更生保護学会	
9	2018年～現在	日本医療ソーシャルワーク学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.	2025年1月	「権利擁護を支える法制度」(最新・社会福祉養成講座・精神保健福祉士養成講座9)	共	中央法規	① 社会福祉士・精神保健福祉士養成の「権利擁護を支える法制度」のテキストである。権利擁護を支える法制度に関する意思決定支援や成年後見制度について、福祉専門職の視点からまとめた。 ② 編集 日本ソーシャルワーク教育学

					校連盟 ③ 担当部分 「第6章成年後見制度 第1節成年後見制度の概要 第2節後見の概要 第3節保佐の概要 第4節補助の概要 第5節任意後見の概要」を執筆 ④ Pp192～213 総頁数 239 頁 A 4 版
(報告)					
1.	2024年8月	「北九州市教育委員会事務点検・評価報告書(令和5年度実績)」	共	北九州市教育委員会	①北九州市教育委員会の業務に関する事務の管理及び執行状況の点検評価を、有識者の立場で評価をまとめた報告書である。 ②総頁数 80 頁
(学会発表)					
1.	なし				

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者	交付決定額 (単位：円)
1.	「成年後見人等の死後事務の実態についての基礎的研究」	日本学術振興会科学研究費助成事業（挑戦的研究（萌芽））	○古野みはる（福岡医療短期大学） 今村浩司（西南女学院大学） 笠修彰（西南女学院大学短期大学部）	4,546,000
(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
	2001年4月～2020年3月 2001年4月～	日本精神保健福祉士協会 福岡県精神保健福祉士協会	理事 会長（代表理事）

2012 年 7 月～	福岡県精神科病院協会精神保健福祉士会	顧問
2002 年 9 月～	北九州地区精神保健福祉士協会	会長
2006 年 4 月～	北九州地区社会福祉専門職 5 団体連絡協議会	代表世話人
2005 年 10 月～	北九州市手をつなぐ育成会	苦情解決委員
2006 年 3 月～	北九州成年後見センター	理事
2005 年 4 月～	北九州市障害福祉ボランティア協会	理事
2001 年 4 月～	北九州精神保健福祉事業協会	評議員
2005 年 7 月～2020 年 3 月	福岡地方裁判所	精神保健参与員
2012 年 4 月～2021 年 3 月	北九州市保健福祉局	オンブズパーソン
2005 年 4 月～2019 年 3 月	北九州市精神保健福祉審議会	委員
2006 年 4 月～	北九州市障害支援区分認定審査会	委員
2008 年 4 月～	北九州市教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員
2008 年 4 月～	福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員
2006 年 4 月～	北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会	委員（地域包括支援部会兼務）
2008 年 7 月～	北九州市要保護児童対策地域協議会	委員
2013 年 4 月～	福岡県精神保健福祉審議会	委員
2013 年 4 月～	福岡県精神医療審査会	委員
2014 年 6 月～2021 年 3 月	厚生労働省（社会福祉振興・試験センター） 精神保健福祉士国家試験委員会	委員
2016 年 8 月～	北九州市障害者差別解消法委員会	委員長
2021 年 3 月～	北九州市社会福祉協議会	評議員
2021 年 3 月～	中間市社会福祉協議会	評議員
2022 年 7 月～	北九州あゆみの会	評議員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2021 年 4 月～	学校法人西南女学院	評議員
2.	2021 年 4 月～	西南女学院大学・短期大学部	評議会・運営協議会メンバー

3.	2021 年 4 月～	西南女学院大学・短期大学部	入試部長・学生募集委員長
4.		西南女学院大学・短期大学部	地域連携室室員